

稲作伝来〜埼玉の米づくりは行田から?〜

今月から、行田の古代史をテーマに市内に残る古代の遺跡や史跡を紹介していきます。

最初のテーマは「稲作伝来」です。行田ではいつから米づくりが始まったのでしょうか。

水田稲作は紀元前10世紀ごろ九州北部に伝来したと推定されています。そこから瀬戸内海沿いに東に伝わり、紀元前500年ごろには名古屋周辺でも水田稲作が始まりました。その後、日本海沿いに東北地方へと伝わり、青森県でも水田稲作が始まりました。

しかしながら、なぜか関東地方では水田稲作が行われず、紀元前1000年ごろ(弥生時代中期)になって、やっと神奈川県小田原市の中里遺跡で関東地方最初の水田稲作が始まりました。少し遅れて行田でも、現在の星宮地区(小敷田)で水田稲作が始まりました。



現在の小敷田遺跡

ス付近にあります。国道建設工事に伴う発掘調査で、弥生時代中期の竪穴住居跡17軒、方形周溝墓5基、河川跡などが発見され、米を蒸す甑などの弥生土器、炭化米、稲の穂を刈る石包丁、石鎌、木製農耕具などが出土しました。なお、水田跡は発見されていませんが、米づくりが行われていたことは間違いないと考えられています。

小田原市の中里遺跡は、瀬戸内地方から水田稲作が伝えられたようですが、小敷田遺跡では北陸地方や長野県地域と同じような土器が出土していることから、長野県方面から水田稲作が伝えられたものと思われる。

小敷田遺跡が営まれた荒川扇状地のはずれは、荒川の伏流水が豊富に流れ出る水田稲作に適した地域です。長野県方面から北関東に水田稲作を伝えた人々は、きつとこの豊かな水の恵みに魅せられて、行田で米づくりを始めたのではないのでしょうか。

小敷田遺跡は現在発見されている、北関東で最も古い農耕集落です。もしかしたら埼玉の米づくりは行田から始まったのかもしれない。

(文化財保護課 中島 洋一)

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



眠っていた足袋蔵をまちづくりに生かそうと、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークの皆さんが中心となって、埼玉りそな銀行行田支店北側にある栗代蔵を改修。平成21年2月に「足袋蔵まちづくりミュージアム」として生まれ変わったんだ。1階は足袋の販売や足袋蔵の紹介、市内の観光案内などをしている、2階は栗代蔵の歴史を感じることができるギャラリーになっているよ。

市内には、まだまだ個性溢れる足袋蔵がたくさんあるから、お気に入りの蔵を見つけてくださいね。



- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています